「りゅうま伝」は高野の分身がお客様のところへご挨拶に伺う。という氣持ちでお届けしています。

りゅうま伝

16号
2021年3月26日
高野竜馬

「聞きそこないは話し手の○○」

先月、小学校での社会人講話体験談を書いてから1ヶ月、5年生舎員の感想文を頂いたおかげで、最近続いている不運な出来事もスッカリ忘れ、自分に酔いしれているアホの高野です。

さて、その感想文集、ここに全文掲載したいくらいですが控えます（笑）。

私の心配をよそに皆よく聞いてくれています。「11歳って意外と大人なのね」と思う反面、チョット上から目線の感想も笑えます。

「けっこう大変なこともあると思いますが、がんばってください。期待しております。」（汗）

不思議とこんな感想も微笑ましく、素直に受け入れられます。

それは子ども達が、こちらの伝えたかったポイントを押さえているからでしょう。

通信簿に載らない勉強、対人関係を作る基礎となる挨拶や返事を大事にしてくださいね、という私のメッセージに対する感想が多いのです。

ただその反面、ごく少数ですが「英語が出来てスゴイ」とか「アメリカまで行って学んで来られた」という誤解もありました。

それは私がアメリカから輸入されてきたマネー・セミナーを日本で最初に手掛けたと話したからで、一部の子ども達には、私が海外まで行って、教材を仕入れたのだろうと思わせてしまい猛省しています。

今回は特にビデオ撮影したものを教室ごとに視聴する方法でしたので修正できません。

「言葉を大事にしなさい。それには国語の勉強が大切だよ」と訴えた私も冷や汗をかきつつ、次の言葉を思い出しました。

「聞きそこないは、話し手の粗相」

昔、ある金融機関で有名な方から諭された言葉です。

聞き手が誤解するのは、話し手のせいですよ、という戒めです。金融商品を扱う方に限らず、セールスや人に物事を説明する全ての人にとって「ドキッ！」とする言葉ではないでしょうか？

言葉の影響力はとても大きいものだからこそ、誤解のない説明を心掛けなさい、と私自身が学ばせて頂きました。

S小学校の皆さん、有難うございます。そして最後までグズつく私に講話者になって貰い懇願してくれた娘に只々感謝するばかりです。

今も感想文集は仕事場に置いていて、少し凹んだ時にめくります。すると自分の職業の存在価値を思い起こさせてもらい、勇氣が湧いてきます。

そして、それを見られているかのように、時折、家内から「アナタがいなくなったら、棺桶にこの文集を入れてあげますネ」と笑われている今日この頃です。

感謝之印

たかの財形事務所
〒819-0374 福岡市西区千里 707-13
090-3407-2123
https://www.takanozaikei.com メール fp.takano@gmail.com

いつも応援してくれて有難うございます。